吉備中央町立円城小学校　学校運営協議会

学運協だより

NO.2　R4.12　　文責：円城小学校長

令和４年１２月１５日１５時３０分から、第２回学校運営協議会を開催しました。
今回の中心は、学校関係者評価でした。
まず、高木教諭が２学期の児童の学校生活について話しました。
続いて、学校自己評価をもとに、学校関係者評価をしていただきました。
また、第１回の熟議（熟慮して議論する）した内容について、現在どのような状況かお聞きしました。
コロナ禍のため、学校に来ていただく機会が少なくなったため、学校に子どもや孫が通っていない方には、評価いただくことが難しかったのですが、多くのご意見をいただきました。

（委員さんより、いただいた主な意見）
・「やさしく」「かしこく」「つよく」よく身についているが、さらに伸ばしたい。
・みんなで何かをする力がついている。
・上級生が下級生の面倒をよく見ている。
・今後も、子どもに真剣に向き合ってほしい。
・保護者とのコミュニケーションをしっかりとる。
・寝る時間が遅くなると、睡眠時間が少なくなる。そうなると、体温が下がってくる。
・学年が上がると、就寝時刻が遅くなる傾向がある。
・コロナ禍で、学校に行くことができなくなって、学校内の様子がよくわからない。学校だよりで学校の中の様子はわかるが、細かいところはわからない。
・持って来ていい学習用具などが先生によって違う。

みんなでめざそう	取り組もう	委員さんの評価
やさしく	ありがとうを言おう	委員全員「よくできている」
かしこく	体験をさせよう	委員全員「よくできている」
つよく	コミュニケーション力を高めよう	委員全員「よくできている」

様式３（第４１条関係）

令和４年度　吉備中央町立円城小学校　学校評価書　別紙１

（評価　A：目標を上回った　B：ほぼ目標どおり　C：やや目標を下回った　D：かなり目標を下回った）

		評　価　項　目	具体的計画（評価指標）	学校自己評　価	関係者評　価	結果の分析及び改善方策
学校経営目標（教育目標）等	1	学校教育目標は、地域・学校児童の実態に合っている。	・全教職員が共通理解をしての設定 ・行事、儀式等での全校児童への意識付け ・各学年での児童への意識付け	A	B	・児童への意識付けをさらにしていく。
	2	学校教育重点目標は、児童・学校・地域の実態に合っている。	・学校教育の「土台づくり」の視点を位置づける。 ・４つの重点の実践化を図る。 「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「体力・健康の向上」「信頼される学校」	B		・４つの重点をさらに徹底する。
	3	目指す児童像は、児童・学校・地域の実態に合っている。	・全職員の共通理解での取組 ・「やさしく」「かしこく」「つよく」の浸透を図る。	A		・よくできているが、もう少し伸ばしてやりたい。
教育課程・学習指導	4	授業時数を確保し、作成した年間指導計画に従って教育課程を実施する。	・年間指導計画をもとにした実践 ・学期ごとの授業時数の集計確認、授業時数の確保	A	B	・年間指導計画どおりに実践できている。
	5	基礎基本の定着を図るとともに、工夫した指導により学習意欲と学力を高める。 （町重点目標　生きる力）	・朝学習の充実 ・特別支援の視点を視野に入れた授業づくり ・岡山型授業５を取り入れた授業づくり ・学力調査等の検証による授業の改善	B		・朝学習をさらに充実させる。 ・授業改善を図る。
	6	学びの土台である学習規律の徹底を図る。	・よりよい学習規律の徹底 ・服装、持ち物についての保護者との共通理解	B		・よりよい学習規律を徹底する。 ・持って来て良いものが先生によって違う。
生徒指導	7	教職員全体として児童支援(生徒指導）に取り組む体制づくりを進める。	・即報告、即連絡、即相談、そして即組織的対応を徹底し、年間を通して定着を図った。 ・晩会での児童の情報交換を行う。全体で共有すべきことは、その都度、校長・生徒指導主事等が確認する。 ・生徒指導主事を中心に、組織で対応する。	A	A	・即報告、即連絡、即相談の体制づくりがができ、徹底した組織対応ができている。 ・さらに子どもに真剣に関わってほしい。
	8	児童がお互いに理解し認め合う、豊かな人間関係づくりに取り組む。 （町重点目標　豊かな心）	・縦割り活動の実施（清掃活動・行事・わくわく班遊び） ・なかよし週間、教育相談を通して、児童同士、教師と児童の人間関係づくりに努める。	A		・上級生が下級生をよく面倒を見ている。 ・みんなで何かをする力がついている。 ・いじめ認知１件、１１月に解消。
	9	保護者と連携協力して、基本的生活習慣を身につけさせる。 （町重点目標　生きる力）	・すこやか委員会の取組 ・メディアコントロールの取組 ・パワーアップチャレンジ週間の取組	A		・保護者とのコミュニケーションをしっかりとる。
保健管理・安全管理	10	学校安全全体計画等を作成し、学校内外での児童生徒の安全確保に努める。	・毎月の安全点検の実施 ・安全な登下校指導 ・各種避難訓練の実施 ・教職員の危機管理への意識の向上	A	B	・学校安全全体計画に従って、安全管理と安全指導ができている。
	11	心身の健康相談活動を充実し、心のケア等に努める。	・教育相談の実施 ・ＱＵの実施 ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	A		・教育相談の充実が図れている。
	12	児童生徒の生活リズムを確立し、学習と生活の充実を図る。 （町重点目標　生きる力）	・パワーアップチャレンジの実施 ・保護者家庭との連携強化 ・健康朝会の実施	B		・寝る時刻が遅いのが気になる。 ・学校家庭で連携して取り組む。
特別支援教育	13	校内委員会の開催や研修を通して、特別支援教育の体制づくりを進める。	・保護者との連携を深める就学指導の実施 ・個別の配慮事項の共通理解 ・校内ケース会議、保護者を交えての懇談会 ・職員研修の充実	A	A	・特別支援教育の体制づくりができている。
	14	個別の支援計画、気づき表を作成する。	・個別の支援計画の作成 ・達成度の確認や見直し、手直し	A		・必要な児童の個別の指導計画を作成し、見直しをしている。
	15	個のニーズに合わせて指導するとともに、他の児童や保護者に理解を求める。	・多角的児童理解、個に応じた指導の徹底 ・保護者との連携を密に ・指導の一貫性と継続性 ・ＳＳＷやカウンセラー、関係機関との連携	A		・徹底した児童理解に努め、共通理解と共通行動ができている。
学校・家庭・地域の連携・協働	16	保護者や地域住民に対して、積極的に学校を公開する。	・授業参観等学校公開 ・学校だよりの配布 ・ＨＰ	A	B	・学校だよりで中のことはよくわかる。学校に行く機会がなくなったので、細かい所はよくわからない。
	17	学校評価の結果や学校学級の様子など学校の情報を、積極的に提供する。	・保護者アンケート、児童アンケートの実施と結果の公表 ・学校だより、ＨＰでの情報発信 ・報道機関を活用しての学校の取組の発信	A		・学校自己評価、学校関係者評価を公表する。
	18	授業や教材の開発に、地域の教育資源や人材を活用する。 （町重点目標　郷土愛）	・地域学校協働活動の継続 （地域との連携・協働） ・地域の教育資源の積極的活用 ・コミュニティスクールの充実	B		・地域の社会教育資源を活用し、さらに充実した教育活動を展開する。
学校の重点	19	多角的児童理解を基盤とした教職員と児童・家庭との良好な人間関係づくりに努める。	・教職員が多角的児童理解を実践的に理解する場を確保する。 ・「信頼」の礎である問題行動発生時の即報告・即対応を徹底する。	A	A	・家庭としっかりコミュニケーションをとる。 ・「すっきり下校」の徹底と保護者への連絡を密にする。
	20	インクルーシブ教育の視点に立った学校運営（特別支援教育等）を行う。	・「違い」を知り、正しく行動できる児童を育成する。	A		・学校全体で特別支援の視点を取り入れた教育活動を行っている。